

# 1. 評価報告概要表

作成日 平成20年6月23日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1175100757
法人名	有限会社大むさし
事業所名	グループホーム新堀やすらぎ
所在地	〒352-0032 埼玉県新座市新堀2-15-15 (電話) 048-492-9222

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	〒330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年6月11日

【情報提供票より】(平成20年5月24日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成16年2月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 5人, 非常勤 12人, 常勤換算 13.5人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造造り 2階建ての1階～2階部分
------	----------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	25,000円 + 実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (200,000円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要(5月24日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	8 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 76.9 歳	最低	70 歳	最高	92 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	海江田医院、奥原歯科医院
---------	--------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、駅から近く公園もすぐ側にあり、住宅街の中に建つ2階建て2ユニットのグループホームである。玄関脇には畑があり季節の花が咲き誇っている。建物裏には、トウモロコシ、ジャガイモ畑があり、緑が多く大変良い環境である。地元のスーパーへ1日2回買い物へ行き、まわりからも地域の一員として理解して頂いている。毎日のメニューも利用者が朝のミーティング時に決めて、調理、配膳、片付けも職員と一緒に実施している。一人ひとりの残された能力を活かし、個々の生活スタイルや自主性を尊重するというホーム運営の考え方が職員の意識とケアに浸透している現われだと思われる。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の改善課題については、結果をもとにした課題についての十分な話し合いがなされておらず、改善への計画作成までには至っていなかったが、今回の評価を機会に、管理者を中心に改善への取り組みを進めていく意欲が伺われる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は勤務時間の都合等から全職員の参加ではなかったが、全員で取り組むことの意義を認識しており、今後の改善が期待される。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2か月に1回開催しており、メンバーは、地域住民(自治会長)、介護保険課職員、民生委員(7～8名)で構成されている。議題を決め、利用者一人ひとりの状態や状況を話し合い、意見交換を行ってサービスの向上に活かしている。議事録を作成し、最近では総合消防訓練を行い、訓練後は、近隣の方と食事会等の交流を行っている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>月に1度やすらぎ便りを発行するとともに、利用者の暮らしぶりや状況、金銭管理や職員の異動についても定期的に報告している。また、家族会を3か月に1回実施し、家族が意見を表す機会ともなっている。直接、管理者に相談、苦情が言えるように管理者の携帯電話の番号を伝えてある。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>運営推進会議においても運営推進委員である地域の方から意見をいただくこともある。会議内で具体策を求められた災害時の対応については、その後ホームの対策として消防署の職員に来て頂き、地域の方々、ホーム利用者を中心に防災訓練を実施した。訓練後は近くの公園でやきそば大会を開催して地域の方々との交流を図るなど、地域との連携に努めている。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	生活の主体は利用者であり、利用者が「地域の一員」として暮らしていけるよう、利用者の自己決定と、集団の力を活かした相互の助け合いをモットーに自主支援を進めていく理念を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念には広範な理念が掲げられているが、すべての職員が具体的に「何をなすべきか」が理解されにくい感じが感じられる。		例えば、ケアプラン作成時や日常の介護について、それが理念の主旨に適合しているかどうか職員参加で検討し、理念の共有と実践に活かしていける工夫を望みたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議の委員として地域の方からも災害時の対応等についての具体策を求められることもある。出された意見への対策として実施した防災訓練後、近くの公園でやさそば大会を開催したりすることで、地域の方々との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者と一部職員にあっては自己評価を行い、評価の意義を理解し、改善への意欲をもっているが、参加に至らなかった職員の認識の高揚が課題である。		管理者は、自己評価及び外部評価の意義を全職員が認識し、活用することにより効果的な改善が期待できることを認識されている。今後、管理者を中心に、より一層の向上を目指して全員で取り組まれることを期待する。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催している。委員は地域住民(自治会長、民生委員)、行政職員(介護保険課職員)7~8名で構成されている。議題を決め、利用者一人ひとりの状態や状況について話し合い、意見交換を行って、サービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には委員として参加して頂き、話し合いが行われるとともに、地域包括支援センターの職員と連携をとっていき、サービスの質の向上に取り組んでいる。また、管理者は市町村に出向いて行くようにしており連携に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月に1度、やすらぎホーム便りを発行し、利用者の暮らしぶり等を報告するとともに、金銭管理や職員の異動についても定期的に報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者に直接苦情が言えるように携帯電話の番号を伝えている。アンケートも行っており、率直な意見をより多く聞けるようにしている。家族の面会時や3か月に1回開かれる家族会は、意見を表すことのできる機会となっている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を大切に、2フロアある中で勤務を行うフロアは固定されており、異動は必要最小限にしている。常勤職員には、6月のシフトから2フロア兼務してもらおう体制にし、利用者のダメージを防ぐ取り組みに努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内部、あるいは外部の研修を通じて段階的に職員を育てる研修体制は確立しておらず、月1回のフロア会議、または、ミーティング等の機会を通じた現場でのトレーニングが主な研修機会となっている。		現場でのトレーニングも重要であるが、出来る限り外部及び法人内部において段階に応じた研修計画を立て、スキルアップにつなげていくことを期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との交流もなされておらず、また、グループホーム協議会への加入もしていない。職員も当ホームの実情のみで他のグループホームのサービスを参考にすることがない。		地域の同業者を講師に招いて研修し、相互訪問へと交流を拡大していく意向をもっているが、実現しやすい他のホームの見学などから交流機会をもち、サービスの質の向上へ進めていかれることを望みたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>随時見学出来るようにしている。必要があれば家族と相談の上、本人に見学をして頂き、場の雰囲気に馴染んで納得してから利用開始出来るように心掛けている。見学の有無は家族に任せており、中には半年間にわたって見学した方もいる。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>当たり前の事を当たり前出来るように支援している。利用者と職員は、共に暮らす仲間として喜怒哀楽を共感しながら一緒に過ごしている。職員は、人生の先輩である利用者から様々な事を教えてもらい、学び支えあう関係を築くよう努力している。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>居室担当者を定め、その者が中心となって、利用者一人ひとりの様子をよく見守り、思いや意向の把握に努め、介護記録に残し、介護計画の際に本人がその人らしく生活していけるように検討する仕組みをとっている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人の思いや意向、さらに家族会などで得た家族の意向を参照しながら、本人がより良く暮らしていくためのアイデアを取り入れ、本人主体の介護計画を作成し、家族の了承を得ている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>基本的には3か月ごとに見直しを行い、現状に即した介護計画を立てている。見直し期間を迎える前に変化が生じた際は、そのつど対策を考え実行に努めている。また、申し送り時は必ず話し合いを設けている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や遠隔地の外出等において、本人や家族の状況に応じた送迎などの支援を行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の医師が2週間に1回往診して健康チェックをしてくれている。また、利用者に変化があった時はすぐに連絡し、適切な医療を受けられる体制が整っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在まで終末期を迎えた利用者はおらず、重度化した場合についての明確な方針は定めていなかったが、現在、重度化や終末期に向けた支援のあり方を検討している段階である。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの誇りを尊重し、プライバシーを損ねる事が無いよう対応し配慮している。保管されている書類は誰でも見られるようになっており、施錠もしていないため他人の目に触れやすい状況である。		記録等の個人情報の取り扱いに十分に気を付けて書類を保管する必要がある。せめて、他人の目に入らないようにカーテンを取り付ける等、早急の対策が望まれる。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食材の買出し、昼食準備など多数の利用者が参加して利用者のペースで進めており、職員側の都合を優先するようなことはしていない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は食事の時間をにぎやかに生き生きと過ごしている。ミーティングを行ってメニューを決め、利用者が食べたい物を引き出せるよう支援している。また、メリハリとして、外食もしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	7時から21時の間はいつでも入浴出来るようになっていて、曜日や順番等を決めることはせず、希望に応じて入浴出来るように支援している。また、入浴チェック表があり、利用者が長時間の入浴にならないように職員による声かけ支援を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの利用者が、習い事や外出の機会を楽しみに生活して行けるよう支援している。例として、メニュー作り、買い物、調理、配膳、後片付け、皿洗い等、利用者が役割を楽しみながら自発的に行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日2回、買い物に出かけるとともに、週2回は電車を使って外出している。希望に応じて自由に外出が出来るよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	21時までは鍵をかけていないケアに取り組んでおり、利用者には満足感が伺える。ホームが住宅地の中にあるので、外に出ても交通事故に遭うこともない。ホームとしては、自由に外へ出られる事を目標にしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、防災訓練、火災訓練を実施している。運営推進会議では、訓練への協力を得られるように働きかけており、実際に地域活動の一環として、ホームの利用者を中心とした避難訓練を実施し、避難の方法を身につけている。地域の方々とはいざと言う時に助けてくれる関係を築いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や状況に応じて、刻み食等を取り入れ食べやすいように工夫している。食べる量や水分量も一日を通してチェック表に記録しながら支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花やコミュニティーセンターで習った習字等が飾っており、季節感や生活感を採り入れている。玄関前には木製の机や椅子が置かれ、建物横にもベンチが置かれて、寛ぎながら過せるように工夫されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた馴染みの家具や生活用品を持ち込んで、利用者が居心地良く過せるように工夫している。写真、絵、縫いぐるみ等も飾っており、自宅に居るような気持ちで過せる配慮が見受けられる。		